

環境進路ガイド

地球のこと、進路のこと、
気になるあなたへ

国際協力

持続可能な発展

気候変動

生物多様性

資源・
エネルギー

人口

食糧

環境・経済

貧困

水環境

廃棄物・
リサイクル

WoWキツネザル
×
山内 萌斗

楽しいが 社会を変える！

高校生のための行動につながるヒント

環境系エンターテイナーのWoWキツネザルさんが、
ゲーム感覚のゴミ拾いイベントなどを手がける若手起業家の山内萌斗さんにインタビュー。
高校時代の挫折を乗り越え起業した山内さんが語る、自分らしく地球に貢献する方法とは。

居場所を変えて変化を

山内 WoWさんの「エンターテインメントで地球を変える！」活動にとっても興味を持っていたので、今日はお会いできて嬉しいです。

WoWキツネザル (以下 WoW) 山内さんは、「清走中」のようなゲーム感覚で楽しめるゴミ拾いイベントをやられていると知り、同じ志を持つ人だと感じいました。起業の経緯を教えてください。

山内 高校生の頃から起業を志していましたが、当初は教育を変えたいと思っていました。きっかけは、高2の時に読んだ『嫌われる勇気』という本に「自分が貢献できる場所は自分で選べる」と書いてあったこと。その頃、野球部で活躍できずにく

すぶっていたのですが、この言葉に背中を押されて部活を辞め、空手部を立ち上げました。小学校から空手を習っていたこともあり、僕が部員に教えました。そうしたらすぐに地区大会

で優勝できたんです。

WoW 優勝ですか！ それはすごい。

山内 自分の特技を活かすことで仲間にも感謝され、先生にも褒められた経験は自信になりました。先の本には「人間の幸せの本質は、他者への貢献感」だとしてあって。ネガティブな気持ちを抱えていた自分でも、居場所を変えたことでポジティブな変化を生み出すことができた。その経験を子どもたちにもしてほしいと思いました。

WoW それがどうして、社会課題解決を目指す起業に変化したんでしょう？

山内 大学生の時に参加したビジネスコンテストで優勝して、シリコンバレーに行かせてもらいました。そこで出会った学生たちの主語が「人類」だったことは衝撃でした。人類のために何をしなければならぬのか、という大きなスケールで事業を考える仲間たちと過ごす中で、貢献した先に人類からありがとうと言われたいと、一気に社会課題へと視野が向きました。



MOETO YAMAUCHI

2000年生まれ。静岡県出身。静岡大学2年次に株式会社Gabを起業。ゲーム感覚ゴミ拾いイベント「清走中」やエシカル商品の販売プラットフォーム「エシカルな暮らし」、あらゆる廃棄物を炭化し、素材に変える「Garbon」などを展開。

WoW KITSUNEZARU

環境系エンターテイナー。2011年にYouTubeでの活動を開始。「エンターテインメント×環境問題」をテーマに啓発活動を行う。著書に『絶滅体験レストラン もしも環境問題が13の飲食店だったら』（山と溪谷社刊）がある。

自分を俯瞰して見る

WoW なるほど。そして自分の力を最大限に活かすためにゴミ問題にたどりついたんですね。

山内 いろんな人に話を聞いたら、環境問題に関わる活動をしている人はネガティブな感情を持っていることが多いんです。なんでボイ捨てするんだ！とか。一般の人とのつながりがないんですよね。だからゴミ拾いを21世紀の遊びにする！と決めて「清走中」を運営しています。

いま力を入れているのは、ゴミをアップサイクルした新素材の開発・商品化です。多くのゴミ廃棄物は完全燃焼すると灰になりますが、無酸素で加熱すれば炭になる。この炭から人工レザーを作ることになりました。炭化して炭素を固定できるから、脱炭素にもつながるんです。

WoW ゴミ (garbage) からできた炭 (carbon) だから「ガーボン (Garbon)」と名付けたんですね。キャッチーでいい！でも挑戦を続けるのは大変ではありませんか？

山内 身近に起業家はいなかったので、奇異な目で見られたこともありましたが、それでも、高校時代の野球部での挫折よりつらいことなんてない(笑)。挑戦する人が社会に増えれば、挑戦者を笑う人はいなくなるはず。

WoW それ、とても大事な視点だなあ。諦めた瞬間に失敗になるのであって、諦めなかったら失敗じゃない。自分を俯瞰して見ることができれば、ネガティブな状況もワクワクする状況に置き換えられるかもしれない。

山内 本当にその通りです。何かを変えたいと思ったら、身近なSNSから情報収集を始めてみる。まずはWoWさんのYouTubeを見るときか！

WoW 絶対おすすめです(笑)。その分野の専門家を探してみるのがいいですよ。

山内 気軽なインプットから始めて、どうやったら実行できるかを考えて、行動に移す。手始めに、自分が知りたい分野の人に会いに行くといいと思います。情熱は必ず伝わりますから。

WoW いつか社会にとってインパクトのあることを一緒にやりたいですね。今日はありがとう！



山内 萌斗

地球環境問題は 必ず解決できる

ブループラネット賞創設 30 周年受賞者共同提言より
若者たちへのメッセージを一部抜粋

文明は長い年月をかけて築かれるもので、
重要な目標として将来世代の繁栄が含まれなければなりません。
若い世代の声にもっと注意深く耳を傾け、
彼らが発するメッセージに留意する必要があります。
さまざまな世代、職業や地位の人々との
コミュニケーションを促す必要があります。
未来について語り、社会的論点になるような広い議論のテーマとし、
今のリーダー達の決断に影響を及ぼすことが必要です。
私たちの子どもたちの未来をむしばみ、
彼らがこれから生きていく環境の質を悪くするような決断を、
私たちはもうこれ以上、下し続けることはできません。
私たちの未来は人間という存在の中に
大切なものとして守っていきたい道徳的価値観によって
築かなければならないのです。

共同提言全文は
こちら



ブループラネット賞ってどんな賞？

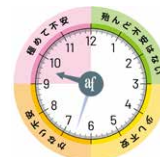
地球サミットが開催された 1992 年に旭硝子財団が創設した地球環境国際賞。地球環境問題の解決に向けて貢献をした個人または組織に贈られるもので、国内外の推薦人から寄せられた候補の中から毎年原則として 2 件を選定している。「ブループラネット」は、人類として初めて宇宙から地球を眺めた宇宙飛行士ユリイ・ガガーリン氏の「地球は青かった」にちなんでおり、この青い地球が人類の共有財産として存在し続けるようにとの願いがこめられている。

もっと
知りたい
人は



環境危機時計も
毎年発表しているよ

旭硝子財団では、環境問題に関わる有識者を対象に、毎年アンケート調査を実施。地球環境に関する現状認識を時計の針で表現する「環境危機時計」の時刻を発表している。1992 年は 7 時 49 分だった。2025 年には 121 か国 1751 人から回答があり、昨年より時計の針は 6 分進み、9 時 33 分だった。



環境問題は「誰かの話」ではない 大切な一歩を踏み出そう

豪雨や山火事など異常気象による災害が増えるなか、地球の未来について考えることは、今や世界中の人たちの大きな関心事になっています。1992 年に創設された「ブループラネット賞」は、そうした地球規模の環境課題に取り組んでいる人々を表彰する賞です。

初回の受賞者は、地球温暖化の仕組みを明らかにした真鍋淑郎博士。大気中の二酸化炭素濃度の上昇が地球温暖化を引き起こすことを数値気候モデルで予測した人物です。その功績が評価され、真鍋氏は 2021 年にノーベル物理学賞も受賞しています。

「ポジティブな未来」を伝えたい

2022 年には、ブループラネット賞の 30 周年を記念して、過去の受賞者 3 人が「共同宣言」を発表しました。宣言には「ネガティブな指摘だけでなく、希望を持てる未来像とその解決策を示そう」という思いが込められています。

執筆したのは、環境に配慮した土地の使い方を研究するエリック・ランバン教授 (2019 年受賞)、社会と自然のバランスを研究するブライアン・ウォーカー教授 (2018 年受賞)、そして環境にやさしい食のあり方を科学的に解明したデイビッド・ティルマン教授 (2020 年受賞) の 3 人です。

若者との対話から生まれた気づき

実はこの提言、日本の若者との対話をふまえて作られているのです。対話の印象をランバン教授はこう語っています。

「日本の若者たちの中には、“社会の役に立ちたい”という気持ちを持っているのに、声をあげると“面倒な人”と思われることを不安に感じている人もいました。でも本来、情熱をもって行動する姿勢は尊重されるべきものです。私たち研究者や大人たちは、そんな若者の声にもっと耳を傾け、支えていかなくてはなりません」

環境は“誰かの問題”ではなく、私たちみんなの問題です。若い世代と大人たちが力を合わせることが未来につながります。

©dyod.be



2019年にブループラネット賞を受賞した
エリック・ランバン教授



環境に関わる仕事は実にさまざま
ここに挙げたのは一例だよ
気になることから考えてみよう



気候変動によって起きる
災害から人々を守りたい

防災工学

地球工学科、建築学科、
土木工学科など

社会や生活
に貢献する

環境に配慮した街や
建物づくりに関わりたい

環境デザイン学

建築学科、都市工学科、
文化政策学科など

環境に配慮した
新しい乗り物を作りたい

環境工学

機械工学科、電気電子工学科など



モノづくり
で貢献する



プラスチックごみを減らす
新しい素材を開発したい

材料工学

材料工学科、応用化学科など

エシカルなファッション産業
をつくりたい

経営学

経営学科、
マーケティング学科など



環境経営を指南できる
コンサルタントになりたい

環境経済学

思わず手に取りたくなる
環境に配慮した商品を作りたい

人間環境学

環境行動学科、環境心理学科など



ビジネス
に変化を起こす

企業の社会的責任を
推進する部署で働きたい

経営学

経営学科、
サステナビリティ学科など

法学

法律学科など



法律・政策を駆使して
環境問題を解決したい

環境法学

法律学科、政治学科など

地方自治体で
環境問題に取り組みたい

都市環境学

都市政策学科など

経済学

公共経済学科、
経営学科など

監修：森朋子
(立教大学准教授 環境学部開設準備室)



環境に関する
国際条約の交渉に関わりたい

国際関係学

国際政治学科など

法学

国際法学科など

地球の自然
を守る



絶滅の危機に瀕する
動物を守りたい

生物学・生態学

生物資源学科、
生物環境科学科など

美しい森・川・海を
生き物や未来のために残したい

森林学

地理学

海洋学

環境課題を解決する方法はたくさんある。
ここにある例を参考に、興味のあることを思い描いて、
そこからどんな学びができるかを考えてみよう！

持続可能な
観光産業をつくりたい

観光学

観光学科、
サステナビリティ学科など

デザインや言葉の力で
みんなの環境行動を促したい

デザイン学

コミュニケーション学



教育や文化の力
で貢献する

環境問題をテーマにした
アニメやゲームを作りたい

美術学

情報学

メディアアート学科、
表現学科など



NPOや学校で子どもたちに
環境について教えたい

教育学

環境教育学など

地域創生学

環境社会学



1ニクな研究が

地球を救う

—— 私がこのテーマを選んだ理由

小さな問いから始まる研究が、社会を動かし、環境課題解決につながる大きな変化を生む。未来を変えるヒントはすぐそこにある。

ラッコはかわいい、でも漁業の敵なの？

三谷曜子 京都大学野生動物研究センター教授



北海道の海で起きていたにらみ合いを科学の力で解きほぐす

海に棲む哺乳類に魅せられ、その生態を探ってきました。その一つが北海道でのラッコの研究です。かつては北太平洋沿岸に広く生息していたラッコは乱獲され、個体数が急減。現在では絶滅危惧種の中で最も危険度が高い「近絶滅種」に指定されています。

2014年に根室沿岸でラッコの生息が確認されて以降、徐々に目撃数が増えていたのですが、同時に漁業関係者から懸念の声が上がりました。ラッコが価値の高いウニを食い尽くすのではないかと心配していたのです。

そこで、ラッコが本当に沿岸の漁業を脅かしているかを研究することに。ラッコが海面でエサを食べる様子を映像で記録。海底にいる生き物の調査も行った結果、ラッコが主に食べ

ていたのは二枚貝であることが分かりました。

動物保護と人の生活の両方を支える

調査した海域では二枚貝の漁は行われておらず、ラッコが漁業を脅かしてはいませんでした。ただ二枚貝が減ってしまうと、ラッコがウニやカニを食べる可能性もあるため、ラッコの個体数とエサの状況を継続してモニターしていく必要があります。希少動物の保護と人間の暮らしの両立をサポートしていきたいと思っています。

生物多様性を考えるきっかけは“かわいい”でいいのです。そのかわいい動物がどんな環境に棲み、どんな問題に直面しているのかを知ることが生物多様性の保全につながります。

もっと詳しく
知りたい人は



Yoko Mitani

京都大学大学院農学研究科修士課程修了後、総合研究大学院大学にて理学博士取得。北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授を経て、2021年より現職。

奇跡の湖に眠る 250 年前の

DNA がマリモを救う？

占部城太郎 東北大学大学院生命科学研究科名誉教授



世界でも珍しい球体のマリモが減った理由を追って

日本の特別天然記念物に指定されているマリモは藻類の一種。球体のマリモは世界でもごくわずかしか残っておらず、大きなマリモが生息する北海道の阿寒湖は“奇跡の湖”ともいえます。同湖のマリモは20世紀前半に数が大きく減ったとされていましたが、裏付けるデータはありませんでした。

そこで、最新技術である環境DNA分析(生き物の粘膜や糞などと共に放出されたDNAを解析することで、生物の種類や量が分かる)を活用し、250年前のマリモのDNAを解析。

100年前に比べ現在ではマリモの数が10～100分の1に減少していることが分かりました。

自然回復に貢献するデータ取得に成功

希少種であるマリモの数の変化を把握することに成功した結果、「数を10倍に増やす」といった具体的な目標設定を示すことができるようになりました。こうした現場での調査はとても大切です。生き物に詳しい人が減っているのは残念ですね。社会が必要とするデータを自ら作ることができる人になってほしいと思います。

Joelaro Urabe

東京水産大学大学院水産学研究科修士課程修了後、東京都立大学理学研究科にて理学博士取得。東北大学教授を経て、2024年より現職。

もっと詳しく
知りたい人は



エコ製品購入のポイント制度は

本当に効果がある？

松本茂 青山学院大学経済学部教授



燃費がいいエアコンを買ったら長時間使うリバウンドも

もともと大学では造園・都市計画を学んでいましたが、修士課程で人々は公園や緑地をどう評価しているかを調査したことをきっかけに、環境経済学の道を歩み始めました。

エコ家電の購入でポイントがもらえる制度やエコカー減税など、環境に配慮した商品の購入を促す政策は消費行動をどう変化したのか。ポイント制度を利用してエアコンを購入した世帯をリサーチしたところ、電気使用量が減少する一方で、高性能のエアコンを購入した世帯がより長時間エアコンを使うとい

う「リバウンド効果」も。車も同様で、燃費がよくなると走行距離が伸びる傾向があります。

環境負荷と時間節約のバランス

エコ商品の購入助成は、主に所得に余裕のある人が買い替えの際に利用する傾向があり、施策としての費用対効果はよくないということが分かりました。「時間利用と環境負荷の関係性」も研究テーマの一つです。どの程度まで環境に負荷をかけながら、効率的に人生を楽しむのか。それを考えていこうと思います。

Shigeru Matsumoto

筑波大学大学院環境科学研究科修士修了。1999年ノースカロライナ州立大学にてPh.D.取得。2012年より現職。

もっと詳しく
知りたい人は



地球の未来に

向き合う仕事、 教えてください！

環境課題に向き合うのは研究者だけではない。
それぞれの方法で地球を守る仕事をしている人たちがいる。
“環境に関わる仕事”の可能性をのぞいてみよう。



**YUICHI
TOMOHIRO**

1984年生まれ。大阪府出身。早稲田大学商学部卒業。2016年にシーベジタブルを創業し、海藻の陸上・海面栽培を行う。
<https://seaveges.com>

海藻の再生

新しい食文化

海藻を陸や海で栽培し、 海の生態系回復を目指す

合同会社シーベジタブル共同代表 友廣裕一さん

高校生の頃、企業で働くのではなく、自分の力で生きてみたいと漠然と思っていました。大学卒業後は地域と関わる仕事がしたいと、日本各地の農山漁村を訪ねる旅に出ました。その旅の途中で、海藻の研究をしていた蜂谷潤に出会ったことが大きな転機となりました。

2016年に、蜂谷と共同で海藻を陸や海で栽培する「シーベジタブル」を設立。気候変動による海水温の上昇で、海藻を餌にするウニや魚の活動が活発になり、海藻が減っていました。こうした環境課題を解決し、海の食物連鎖を根底から支える海藻に光を当てたいと考えたのです。

栽培した海藻を使った料理の提案も行っています。海藻は奥が深いんですよ。新たな食文化としての海藻の可能性も追求していきたいですね。またグッドシーという非営利の法人を設立し、大学の先生たちと連携して「海藻を海で養殖すると魚を含む生態系が回復する」というデータを集める調査を行なっています。美味しい海藻を食べることで漁業者の仕事が増え、生態系が回復し、みんなが幸せになれる。そんな好循環をつくっているという手応えにやりがいを感じます。

大学時代にはたくさんの大人に話を聞きにきました。そうした経験を通じて、自分がどんなふうに生きたいのかが少しずつ見えてきた気がします。“海藻”にたどり着くまでには、うまくいかなかった数年間もありましたが、人生を楽しみながら前に進んでいる限り、“失敗”ではないという自信はありましたね。将来のことを考えすぎず、少しでも心引かれるものがあったら、自分の壁を壊して世界を広げてほしい。みなさんのこれからの人生を応援しています。

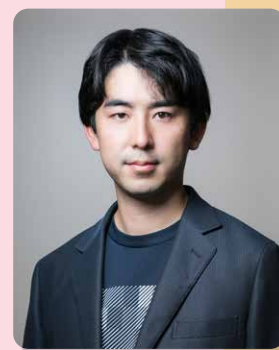
ルワンダでの経験を原点に、 衛星データで農業課題を解決

サグリ株式会社代表取締役CEO 坪井俊輔さん

AIと衛星データを活用して農業を支援する事業を国内外で展開しています。実は「サグリ」は2回目の起業で、大学時代に教育分野で最初の会社を立ち上げました。その一環で訪れたルワンダでの経験が、私の人生を大きく変えました。現地の小学校で夢を語る子どもたちに出会ったのですが、彼らを待ち受けていたのは、卒業後に実家の農業を手伝うという未来でした。貧しい農家の家に生まれたというだけで、夢を諦めざるを得ない子どもが大勢いる。教育だけでは変えられない課題があることに初めて気が付いたのです。

低所得の小規模農家のためにできることはないか。その思いがサグリの原点です。土壌の状態や生育状況を「見える化」するシステムを開発し、感覚に頼っていた肥料の散布をデータに基づいて最適化。温室効果ガスの排出抑制にも貢献しています。温室効果ガスの削減分をカーボンクレジットという形で企業に売ること、農家の収入源にもなります。

すべてが順調に進むわけではないでしょうが、目標に到達する道は一直線でもなくてもいい。仮説やロジックに頼らず、まずは行動して何かをつかみ取ってほしい。私自身もその途上ですが、これからも頑張ります。10年後、環境の分野で会えたなら、ぜひ未来を語り合いたいです。



**SHUNSUKE
TSUBOI**

1994年生まれ。神奈川県出身。横浜国立大学理工学部卒業。2018年サグリを起業。衛星データとAIを活用し農業課題の解決に取り組む。
<https://sagri.tokyo>

衛星データ

農業の最適化

ワクワクするような、 健康的なファッション産業を作る

一般社団法人unisteps 共同代表 鎌田安里紗さん

高校1年生の時にアパレルショップでアルバイトを始め、ファッション業界に関わるようになりました。現在は企業、行政、消費者、デザイナーといった多様なセクターの方々と共に、ファッション産業の構造や意識の改革を後押しする活動をしています。

私がアルバイトを始めた頃、ファストファッションが登場。Tシャツが1000円で買えることに喜びを感じる一方、たくさん作って短期間で消費する状態に疑問を抱くように。環境負荷が高いですし、劣悪な労働環境下で働く人々を増やしてしまう。それでは、誰も幸せになっていないんじゃないか。その違和感が、現在の活動へとつながっています。サステナビリティを推進する活動は成果が出るまでには時間がかかりますが、少しでも前進していると感じられるのが楽しく、やりがいになっています。

ものづくりの面白さも伝えたいという思いから、「服のたね」プロジェクトも始めました。自分が育てたコットンが服になるまでを体験する1年間のプロジェクトです。私自身、初めて工場を訪れた時の驚きは忘れられません。洋服ができるプロセスを知れば、簡単に買って捨てようとは思えないはず。学校などと協力しながら活動を広げていきたいと考えています。高校、大学時代、私はよく人に会いに行きました。いろいろな人と話すことが立体的に見えてきて、必ず次の自分につながると感じます。



**ARISA
KAMADA**

1992年生まれ。徳島県出身。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士(政策・メディア)。持続可能なファッション産業の形成を目指す。
<https://unisteps.or.jp>

ファッション

サステナビリティ

これだけは
知って
おきたい

環境キーワード

ここで紹介しきれなかった
キーワードを知りたいなら
こちらの環境用語集へ



環境に関する
学びを深めたいのなら、
話題のキーワードを
チェックしよう！



Planetary Boundaries

プラネタリーバウンダリー

超えてはいけない 9つの「地球の限界」

スウェーデンの科学者たちが提唱した概念。人間の活動が地球環境に与える影響を9つに分類し、それぞれに限界点（バウンダリー）を設定。この限界を超えると、地球が深刻な変化を起こすことを示した。現在すでに「気候変動」や「生物多様性の損失」など、6つの分野で境界を超えているという。

Thirty by Thirty 30by30

2030年までに海と陸の30%を保護する

生物多様性を回復するネイチャーポジティブ実現のために、「2030年までに陸地と海の30%以上を健全な状態で保護する」という国際目標のこと。日本の達成率は2023年1月時点で陸地が20.5%、海が13.3%。環境

省は国立公園の拡大だけではなく、企業や個人が生物多様性の保全に取り組んでいる場所を「自然共生サイト」として認定する制度をスタート。大学のキャンパスが認定されている例もあるので、調べてみては？

Nature Positive

ネイチャーポジティブ

生物多様性の損失を 食い止め回復を目指す

日本語でいうと「自然再興」。森林伐採や乱獲などにより、いま生物多様性（多種多様な生物が関わり合いながら生きている状態）が猛烈な速さで失われつつある。生物多様性の損失を2030年までに食い止め、ポジティブ、つまりプラスに転じ、回復させていくことを目指す国際的な取り組み。

Blue Carbon ブルーカーボン

海藻が光合成をして温暖化対策に貢献

ワカメや昆布など海の中の植物は海水中に溶け込んだCO₂を吸収し、炭素として固定する。海は英語で「ブルー」、炭素は「カーボン」だから、海中で吸収・固定された炭素は「ブルー

カーボン」と呼ばれ、地球温暖化対策として注目を集めている。ブルーカーボンを増やすには、藻場（もば）やマングローブ林などを保全していくことが欠かせない。

Ethical Consumption エシカル消費

人や環境に配慮した消費行動をとる

人や社会、地域、環境に配慮して商品やサービスを選ぶこと。エシカル（ethical）は「倫理的な」「道徳的な」という意味。たとえば安価なTシャツの背景には、学校に通えず安い賃

金で働かされている子どもがいるかもしれない。商品やサービスの裏にある課題に目を向け、児童労働や環境破壊に加担している企業の製品を買わないという意識を持ちたい。

Plant-Based Food

プラントベースフード

植物から生まれた 環境にやさしい代替食

植物由来の原材料を使った食品のこと。とくに肉や魚の味や食感を再現したものを指す。牛のげっぷや家畜の排泄物から出るメタンガスが地球温暖化の原因になっていることから、肉の消費を減らそうという動きとともに開発が進んでいる。ファストフード店の中には、「大豆ミート」を使ったハンバーガーをメニューに取り入れているところも。

Microplastics

マイクロプラスチック

生態系を脅かす 微細なプラスチックごみ

5ミリ以下のごく小さなプラスチック粒子のこと。やっかいなのは、いったん環境中に放出されると回収はほぼ不可能になること。海岸に捨てられたビニール袋や包装容器が海に流れ出し、紫外線や波の影響で砕けてマイクロプラスチックになることも。魚がエサと間違えて食べてしまうと、分解されずに体内に残り、組織を傷つけるかもしれない。その魚を人間が食べることで人体にも影響を及ぼす可能性がある。

地球環境を考えるための

視野が広がる
本の世界へようこそ!



ブックガイド

環境の本と聞くとなんだか難しそう? でも身構えなくて大丈夫。
バッタを追いかけたり、歴史を振り返ったり——いろいろな角度から地球を見つめる本もある。
まずはちょっと不思議で、ちょっと深い6冊から始めてみては?

自然と向き合いたいときに



センス・オブ・ワンダー

レイチェル・カーソン/著 森田真生/訳 筑摩書房

自然に“ときめく”感性を育てるには

世界的ベストセラー『沈黙の春』の著者が、自然の美しさや不思議さに心を動かす感受性(センス・オブ・ワンダー)を育む大切さを綴る。翻訳者の森田真生による「そのつづき」も収録。読み終わると、森や川に出かけたくなる。

#エッセイ

#自然との対話

#環境教育



農はいのちをつなぐ

宇根豊/著 岩波ジュニア新書

食べ物の先にある田んぼのいのちの話

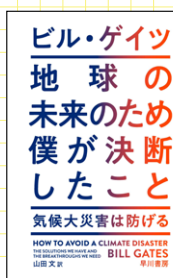
減農薬という言葉を広めた農民作家が考えるいのちと農について。稲を育てるだけでなく、多くの生き物と共にいのちを育む「農」の本質に迫る。米騒動で農業が抱える課題への関心が高まる今こそ、読んでおきたい一冊。

#農業

#自然との共生

#生態系

歴史と科学にヒントあり



地球の未来のため僕が決断したこと —— 気候大災害は防げる
ビル・ゲイツ/著 山田文/訳 早川書房

ゲイツが本気で考えた温暖化の防ぎ方

マイクロソフト創業者でテクノロジーマニアを自認するゲイツが、気候変動によって起きる大災害を技術で防ぐための方法を提示。「未来の技術が地球を救ってくれるのをただ待っているといけない。今すぐ行動する必要がある」

#気候変動

#テクノロジーと未来

#イノベーション



文明崩壊——滅亡と存続の命運を分けるもの 上・下

ジャレッド・ダイヤモンド/著 榎井浩一/訳 草思社文庫

滅びた文明、生き延びた文明 その違いは?

過去の文明がなぜ滅び、あるいは生き延びたかを考察し、文明史における環境問題の意義を解き明かす。下巻では、徳川幕府による植林政策が持続可能な社会を実現した例として紹介されている。

#環境と歴史

#ブループラネット賞

#文明の選択

研究テーマに悩んだら



バッタを倒しにアフリカへ

前野ウルド浩太郎/著 光文社新書

机を離れ、フィールドへ出よう!

ファーブルに憧れて昆虫学者を目指した著者が、アフリカ・モーリタニアに渡り、農作物に被害をもたらすバッタから人類を救うために奮闘するノンフィクション。苦労の連続をバッタへの愛と情熱で乗り越えていく姿が胸を打つ。

#ノンフィクション

#アフリカ

#昆虫学者



海獣学者、クジラを解剖する。

田島木綿子/著 山と溪谷社

なぜクジラは海岸に打ち上がるのだろうか?

浅瀬で座礁したり、浜辺に打ち上げられたりするクジラの解剖を手掛ける著書によるエッセイ。クジラを乗せた車がパンクしたり、異臭騒ぎが起きたり。リアルな現場を伝えるとともに、海に生きる哺乳類の生について考察している。

#エッセイ

#海獣学者

#海の生態系

環境進路ガイド

地球のこと、進路のこと、
気になるあなたへ